

1 (5) 地域との連携

学校主導・地域主導

こんな実践

地域と連携していく上での悩みとして、地域からの要望に対して、学校（教職員）が負担感を感じることもあったり、逆に、学校からの要望が地域に届かなかったりすることがあります。地域と連携した学校づくりについて、主導・主体を明確にした実践です。

実践学校 D小中学校

実践対象 全教職員

実践時期 通年

① 地域住民が日常的に参画する学校づくり【学校主導】

年間通して、計画的に来校していただき、ボランティアの方々には、サブティーチャータ的な役割で支援していただくようお願いしてあります。計画はすべて学校で行い、教師のねらいに応じて、支援していただきます。それにより、学校教育目標に近づく活動ができ、各教科・領域や諸活動等の目的を達成することができます。



地域の方としめ縄を作る4年生

- ・登下校の見守り ・読み聞かせ
- ・米づくり ・しめ縄づくり
- ・クラブ活動ボランティア
(茶道, 調理, 探検, 囲碁, 生け花 等)
- ・クロスカントリースキー指導 等



ここがポイント！

ボランティアの方々に来ていただくと、教職員の負担感が大きくなりませんか。

- ✓ボランティアの方々には、目的をはっきり伝え、お互いの役割を明確にします。
- ✓学校のありのままの姿を見ていただき、特別な準備は一切しません。
- ✓継続して来ていただくことで、時間をかけた打ち合わせは行いません。
- ✓ボランティアの方々のおかげで、子供が成長した姿や教職員の負担が減った状況を全教職員で共有します。

② 子供が地域で学ぶ学校づくり【地域主導】

子供が地域に出て、地域の方がメインティーチャーとして指導します。地域の願いに学校が共感した場合に、子供が参加しています。教育課程外の内容も含まれることがあります。子供は幅広い知識や技能、思考力、判断力、表現力等が自然に身につくことがあります。

【登校日】・クリーンラリー（清掃活動） ・通学合宿（1週間）

【休日】・地域の文化祭 ・地域のお祭り ・マラソン大会 等

③ 地域の主体となる学校づくり【学校と地域の協力】

学校が地域づくりの一助となるよう学校ができることを行います。子供の成長には直結しませんが、将来的・間接的には「地域の活性化＝子供の成長」につながると予想されます。

- ・議会参加、役場訪問、地域めぐり
- ・お茶のみサロン（お年寄りが学校でお茶を飲む。子供とは直接交流しない。）



地域で行われていたお茶のみサロンを学校で開催



ここがポイント！

地域の方々と、もっと連携を図りたい場合、どのようにすればよいのでしょうか。

- ✓校内での窓口を一本化し、気軽に相談できる地域の代表的な立場の方と、情報交換を行うことが大切です。担当教職員は、様々な地域の情報を教職員へ伝えます。

まとめ

- ・活動の「主導・主催」を明確にすることで、その目的の焦点化・共有化が図られ、運営がスムーズになります。また、責任の所在も明確になり負担感が軽減します。
- ・地域の願いと教育活動の質の向上とのバランスを大切にします。
- ・地域と学校とは信頼関係で成り立っています。日頃から、全ての教職員が、地域に信頼される教育活動・態度を心がけるようにします。